もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな花 えな自慢69 シデコブシ

氷河時代から残る絶滅危惧種

▲飯地町の自生地に咲くシデコブシ

シデコブシは、愛知県、岐阜県、三重県の一部に分布するモクレン科の落葉小高木。湿地周辺を好んで生育するため、丘陵地で湿地が多い東濃地域には、シデコブシの自生地が多くある。日本固有種であり、生きた化石とも呼ばれるほど貴重なもの。シデコブシの名前は、その花の形が神事の四手（しで）に似ていることに由来する。市内には、市の天然記念物に飯地町大根（おおね）シデコブシ自生地と岩村町飯羽間のシデコブシ自生地が指定されている。特に飯地町の自生地は、分布域の中で最も標高が高いところに位置している。

▲春には薄いピンク色の花を付ける

ひと口メモ

シデコブシ、ハナノキ、ヒトツバタゴの３種は、そろって東海地域の限られた地域を中心に自生する氷河時代の遺存植物で、絶滅危惧種。このため、東海丘陵要素、または周伊勢湾要素の植物群として、近年研究の対象となっている。

えな史 えな自慢70 石室千体仏

７年に一度のご開帳

▲ 1,000体の阿弥陀像が安置される石室

岩村町にある経塚。1632（寛永９）年、岩村藩主松平乗寿（のりなが）が岩村城の鎮護（ちんご）と領民の繁栄を祈願して建立。浄土三部経を千部、地中深くに埋蔵し、その上に石室を設け、1,000体の阿弥陀（あみだ）像を安置したという。約110年を経て岩村藩主松平乗賢（のりかた）らにより、1741（寛保元）年に修復再営。石室を改修し、仏像も新しく作って埋蔵した。仏像は中尊１体と小像が1,000体。全仏像とも金彩（きんだみ）（金箔（ばく））が施してある。７年ごとの春にご開帳され、２週間にわたり千体仏を拝観することができる。岩村城下町の周囲には、このほかにも町を守るようにいくつかの経塚が取り巻いている。

７年に１度の石室（いしむろ）千体仏のご開帳は、ことし４月22日㈰から５月６日㈰まで行われる。

▲石室の中の金色に輝く仏像

ひと口メモ

往時は、20数人の僧衆によって荘厳な儀式が１カ月間続けられたという。城主の妻楓（かえで）姫に、恋心を抱いてしまった家老の松平左（さ）門（もん）が大蛇に飲み込まれてしまい、心労から病の床に就く楓姫の回復祈願と左門の弔いに建立したともいわれている。

次号は４月15日号
発行日は４月13日㈮です

広報えな No.171
2012年（平成24年）
４月１日発行

発行　恵那市役所／編集　企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目１番地１ TEL（0573）26-2111／FAX 25-6150
http://www.city.ena.lg.jp/　info@city.ena.lg.jp

『広報えな』４月１日号、１部当たりの印刷経費は約9.4円（税込み）です。

◀市安心安全メール配信システム（登録用QRコード）
市WEB版文字放送システム▶（閲覧用QRコード）
□問い合わせ　防災情報課（内線317）

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。